

女性労働問題研究会  
初夏の研究例会のご案内

「日本社会における『支え合いのシステム』の現状とこれから  
—労働問題解決への具体的道筋を考える—

日時：2009年5月16日（土） 14:00-17:00

会場：明治大学リバティタワー7階 1071 教室

話題提供：楠本和佳子（桜美林大学・上智大学・立教大学兼任講師、文化人類学）

レスポンス：藤井豊味（女性ユニオン東京）、大津芳子（労働情報相談センター・八王子事務所）

参加費：500円（会員は無料）。事前申し込みは不要です。

\*\*\*

生きていれば誰しも、困難や危機、ひとりではどうにもならない状況に見舞われることがあります。しかし日本人は「自助努力」のスローガンのもと、自分ひとり（あるいは家族内）でなんとかしようと頑張りがちではないでしょうか。11年連続して自殺者が3万人を越えるというのも、様々な角度から考察すべきことではありますが、ひとつの原因に、他者からの支え・支援が受けづらい社会状況があるのではないかと思います。

初夏の研究例会では、この「支えるシステム」の現状がどうなっているのかを、労働の現場を例に取って考察したいと思います。自分が、あるいは自分の知っている誰かが、働く現場で困難や危機的状況に直面した時（例えば解雇やハラスメント）、どのような支援の手段が存在し、どのルートでそこにたどり着けるのか、どのような解決策があるのか。行政、NGO、組合、“普通の人々”のプライベートな支えといった様々なレベルでの支援のシステムの現状を把握すると共に、それを一個人がどのように活用できるのか、今後そのシステムをどう発展させられるのかを皆様と一緒に考えたいと思います。

当日は、まず、アメリカに長年暮らし、NGOのボランティアとして支援活動を行って来た楠本が、帰国してから体験した自身の労働問題のこと、日米の支援のあり方の違いなどについて話します。その後、労働問題解決を支援する立場から、藤井会員と大津会員にご自分たちの活動についてご紹介いただき、楠本の話に対するフィードバックをいただきます。

後半はフロアの皆さんとのディスカッションになります。情報・アイデア交換を通して、具体的で役立つ話を期待しています。今年は「年越し派遣村」の話題で幕が開きました。今後、より多くの方が社会的支援を必要とすることになるでしょう。それに向けての勉強会となれば幸いです。いろいろな形で「支え合い」に携わってきた方、いま支援が必要な方、支援のシステムを作るために何かしたい方、皆様の参加をお待ちしています。